

事業名	平成 29 年度「能登・祭りの環」インターンシップ事業	
活動形態	活動場所	①穴水町沖波／②輪島市門前町／③能登町矢波／④珠洲市粟津
	活動人数	<p>①穴水町「沖波大漁祭り」：43名（金沢大学6名、石川県立看護大学2名、金沢星稜大学31名、北陸大学2名、金沢学院大学1名、放送大学1名）</p> <p>②輪島市「黒島天領祭」：41名（金沢大学11名、石川県立大学3名、石川県立看護大学5名、金沢星稜大学20名、北陸大学1名、放送大学1名）</p> <p>③能登町「矢波諏訪祭」：18名（石川県立看護大学3名、金沢星稜大学13名、北陸大学2名）</p> <p>④珠洲市「粟津の秋祭り」：20名（金沢大学3名、石川県立大学8名、金沢星稜大学4名、北陸大学3名、金沢学院大学1名、県外大学1名）</p> <p style="text-align: right;">【計 122 名】</p>
活動内容	<p>平成 23 年度から「能登・祭りの環プロジェクト」として、少子高齢化等により担い手が不足する能登の伝統文化である「祭り」に、学生達が参加をすることでその開催を支援してきており、平成 28 年度は「能登・祭りの環インターンシップ事業」として、能登の伝統文化である祭りへの参画を地域へのインターンシップと位置付け、祭り当日のみ参加する「当日インターンシップ」と、祭りの参加に加えて、祭りを継続的に支援するための仕組みを検討する「長期インターンシップ」の 2 つの取組を実施した。</p> <p>平成 29 年度は加えて、祭りの開催数日前に地域を訪れ、祭りの歴史や太鼓の叩き方等を学ぶ「短期インターンシップ」を新たに実施した。</p> <p>また、継続的に本事業を実施していくため、事業の実施体制を見直し、「能登キャンパス構想推進協議会」の構成機関それぞれの担当で構成された「能登・祭りの環インターンシップ事業実行委員会」を組織し、本実行委員会において事業を実施することとした。</p> <p>1. 当日・短期インターンシップ</p> <p>①穴水町：沖波大漁祭り【8月14日～15日】</p> <p>当日は、金沢大学6名、県立看護大学2名、金沢星稜大学31名、北陸大学2名、金沢学院大学1名、放送大学1名の計43名の学生と、金沢星稜大学の教員3名が参加した。</p> <p>短期では、8月11日に金沢星稜大学の学生1名が長期インターンシップの学生達と合同で、キリコの組立作業に参加した。</p> <p>②輪島市：黒島天領祭【8月17日～18日】</p> <p>当日は、金沢大学11名、県立大学3名、県立看護大学5名、金沢星稜大学20名、北陸大学1名、放送大学1名の計41名の学生と、金沢大学、金沢星稜大学の教員5名が参加した。</p> <p>短期では、金沢大学の学生7名（うち留学生4名）と教員3名が、7月10日に黒島天領祭の祭礼実行委員の方々を訪問し、黒島の歴史と現状、祭りの由緒など</p>	

について教えていただき、資料館等を見学した。また、7月24日には再度訪問し、黒島の歴史と祭りに関するヒアリング調査について質疑応答するとともに、太鼓保存会の方々から天領祭での太鼓の叩き方を学んだ。

③能登町：矢波諏訪祭【8月15日～16日】

県立看護大学3名、金沢星稜大学13名、北陸大学2名の計18名の学生と、県立看護大学、金沢星稜大学の教員2名が参加した。

④珠洲市：粟津の秋祭り【9月12日～13日】

当日は、金沢星稜大学4名、金沢大学3名、県立大学7名、北陸大学3名、金沢学院大学1名、県外大学生1名の計19名の学生と、県立大学と金沢星稜大学の教員6名が参加した。

短期では、石川県立大学の学生4名と教員3名が、珠洲市粟津を訪問し、羽黒神社の高山宮司から祭りのいわれやキリコについて教えていただいた。その後、方姫神社では、粟津自彊団の濱山団長、菊谷副団長から太鼓の叩き方をご指導いただいた。

2. 長期インターンシップ

金沢大学1名、金沢星稜大学生2名、金沢学院大学1名、放送大学1名の計5名の学生が参加した。穴水町「沖波大漁祭り」をメインテーマに、責任者会議やキリコ出し・組立等の祭り開催の事前準備に参加するとともに、昨年度作成した、学生が祭りに参加するにあたっての注意事項等をまとめた「キリコ祭り六箇条」、地域が学生を受け入れるために必要な情報等をまとめた「しおり」をブラッシュアップした。

また、学生等と祭りをマッチングするためのシステムについて検討した。